

# 生涯教育月間

2023  
秋冬

季刊 No.133



日光東照宮（栃木県）

伝承講演会「歌舞伎」に親しむ	2
偉人のふるさとを訪ねて（会津編）	4
宝井派で聴く武士道	6
デジタル一眼レフカメラ講座	8
プロフィール・インタビュー フリージャーナリスト 多賀 幹子さん	12



# 伝承講演会

# 「歌舞伎」に親しむ

7月15日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて、歌舞伎俳優・中村京蔵氏を講師に招き、歌舞伎の見どころの解説、ミニ公演を通じて歌舞伎の魅力をお伝えいただきました。



## 「藤娘」ミニ公演

三味線とお囃子の音とともに、ほろ酔いになった若い娘が妖艶に舞う。これは、歌舞伎の女方舞踊の代表的な曲目「藤娘」の一幕、藤音頭のシーン。藤の花の精が町娘に化身して、恋の楽しさやうれしさ、切なさを踊ります。今回の歌舞伎レクチャーは、中村京蔵氏による「藤娘」のミニ公演からスタートしました。

歌舞伎においてひとときわ目を引くのが、女方の衣裳。ミニ公演の後には、曲目に合わせて、藤の花のデザインをあしらった着物や帯について衣裳の担当者より解説がありました。また「藤



衣裳方による早変りの仕掛けの解説

娘」の見どころとなる「引抜」という早変りの仕組みについてもご紹介いただきました。あらかじめ上下に分かれている着物を糸で縫い付け、帯で隠す。引抜の際はその糸を抜くことで、素早い着替えを可能にしていると教えていただきました。



床山によるかつらの解説

た。また女方がかかるかつらを担当する床山と呼ばれる方からも、時代背景に合わせた髪のかんざしなどの装飾品について解説がありました。舞台上立つ俳優だけでなく、衣裳、床山など、さまざまな裏方の存在があるからこそ歌舞伎は成り立っています。

ミニ公演、衣裳解説の後には、歌舞伎の成り立ちについての解説がありました。歌舞伎は徳川家康が江戸幕府を開府した1603年頃、出雲の阿国という女性が戦乱の世で亡くなった死者の魂を鎮めるために踊った念仏踊りが起源だと言われています。当時はその踊りが目新しかったことから、前衛的な、常軌を逸するという意味の「かぶく」という言葉が変化した「歌舞伎」と名付けられたと解説がありました。また歌舞伎は本来女性がおこなったものですが、風紀上の問題から禁止になり、次第に青年男性のものへと

## 歌舞伎の成り立ち



長唄「藤娘」の舞

制作協力：(独)日本芸術文化振興会 国立劇場

変化。そのスタイルが発展して今日に至っているからです。

他にも歌舞伎と切り離せない三味線の存在についても語られました。三味線を使うことによって、能や狂言にはなかった豊かな音楽性をもたらし、歌舞伎とともに発展していったと説明がありました。



藤娘のうしろ姿（ふの字帯）

## 女方の演技

女方のスペシャリストである中村京蔵氏より、女方の演技について実演を交えながらご紹介いただきました。男性の骨格を女性らしく見せる工夫として、上半身は左右の肩甲骨を合わせ、肩の力を抜いて胸を張ること。そして下半身はひざとひざをくっつけて、歩くときは出した足

のつま先が内側に来るようにようにという指導がありました。レクチャー参加者の中から代表して2名の方に実践していただきましたが、姿勢を保つだけでも難しく、女方を演じる俳優の技を身をもって感じました。また感情表現についてもさまざまなケースを例に出して解説をしていただきました。泣きの演技の際には、お姫様や若い娘の場合は袖を使って涙を拭う、奥女中や武家女房は泣き紙とよばれる紙を使って顔を隠すなど、演じる年代や立場、時代背景によってどのような演技方をするのかということ、詳しくご紹介いただきました。



女方の所作指導



女方の所作を体験

## 海外での公演経験

その後、34カ国60都市以上で公演を行った思い出を語っていただきました。特



笑いの所作



泣きの所作

にキューバで公演をした際は800人の定員が溢れてしまうほどの人気で、地元の楽曲にあわせて歌舞伎を披露した際はとても盛り上がったと振り返られました。

最後は質疑応答が設けられ、「女方は見得（みえ）はやらないんですか？」「頭を思いっきり回す連獅子は目が回らないんですか？」といったさまざまな質問が飛び交いました。歌舞伎を初めてご覧になる方から通な方まで、誰もが楽しめる講演会になりました。中村京蔵さん、スタッフの皆さんに改めてお礼を申し上げます。興味が湧いた方はぜひ、歌舞伎の公演にも足を運んでください。

次回以降も伝統文化や舞台芸術などでみなさんに喜ばれるような企画をしてまいります。



伝承研修会

「ふるきよきものの伝承」

2023年8月31日(木)～9月1日(金)

失われつつある  
日本の精神文化を求めて

偉人のふるさとを訪ねて(会津編)

# 幕末維新に 活躍した先人たち

今回の伝承研修は、戊辰戦争時、白虎隊悲劇の舞台となった飯盛山や、会津藩の歴代藩主がこよなく愛した国指定名勝会津松平氏庭園 御薬園などを巡りながら、会津の歴史を学びました。

## 飯盛山



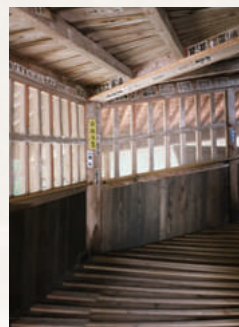
十九士の墓の前で剣舞を見学

一行がはじめに訪れたのは飯盛山。ここは江戸時代末期に起こった戊辰戦争で、悲劇の舞台となった場所です。当時、会津藩は16才の会津藩士子弟で編成された白虎隊を編成し、新政府軍に抵抗を続けていました。その中の二番隊は、戸ノ口原に敵を迎え撃つも新政府軍の猛攻に敗走。その先にとどり着いたのが飯盛山でした。ここで目にしたのは砲煙と炎に包まれた城下。少年たちの間では入城すべきか敵軍に突入し玉砕すべきか激論が交わされたといひ、最後には「敵の圧倒的戦力の前で、捕虜になって敵の恥辱を受けるようなこととなれば、君侯と祖先に申し訳が立たない」との思いから「潔く自刃して武士の本文を明らかにする」道を選んだといひます。飯盛山の中腹にある墓地には、自刃した十六士と先に戦死した少年たちの墓が立ち並んでいます。

御薬園は、江戸時代の代表的な大名型山水庭園として国の名勝に指定されています。今から約600年前の室町時代、霊泉が湧

## 御薬園

す。当時に思いを馳せながら、剣舞を見学しました。  
また飯盛山内にある国重要文化財、会津さざえ堂の見学も行いました。この建物は1796年、飯盛山にあった正宗寺というお寺の住職であった僧郁堂が考案した建物です。上りと下りが全く別の通路になっている一方通行の構造により、たくさんのお参りがすれ違うこと無く安全にお参りできるという世界にも珍しい建築様式を採用しています。



さざえ堂内部のスロープ状の階段



国重要文化財のさざえ堂

会津武士道を中心とした会津の歴史や文化を学ぶため、一行が向かったのは「歴史感動ミュージアム 会津武家屋敷」。そこで会津の郷土玩具「あかべこ」の絵付け体験を楽しみました。あかべこはその昔、赤い色は病魔を祓うと考えられていました。今でも厄除けや疾病除けの縁起物として、またおみやげとしても大変親しまれています。  
その後は、2300坪の会津藩

## 会津武家屋敷



大名型山水庭園の御薬園

出したこの地に、会津領主が別荘を建てたのが始まりといわれています。後に各種薬草を栽培する薬草園が設けられ「御薬園」と呼ばれるようになりました。戊辰戦争時は、ここが新政府軍の療養所として使用されたため、戦火に巻き込まれずに往時の姿をとどめています。

家老西郷頼母邸を復元した施設を見学。けやき・ひのき・杉材を使用した和様建築の豪華壮大な造りとなっており、幕末の時代にタイムスリップしたような感覚を味わいました。



あかべこの絵付け体験



会津藩の生活が偲ばれる

## 大内宿

江戸時代の町並みを今に残す宿場「大内宿」。下野街道と呼ばれる会津と日光を結ぶ街道の両脇に

は、茅葺き屋根の民家が並び、江戸へ向かう大名や旅人の宿駅として重要な役割を果たしていました。30軒以上の茅葺き屋根の民家が並び様子は極めて珍しく、年間約80万人の観光客が訪れ賑わいを見せています。そして一行が訪れた日は、茅葺き屋根を守るために年に一度おこなわれる「一斉放水」の日。その迫力は、思わず感嘆の声上がるほどでした。



江戸時代へタイムスリップ



年に一度おこなわれる一斉放水

## 塔のへつり

長い年月をかけて自然が作り出したこの渓谷は、塔の形が立ち



形状によって様々な岩の名がついています

並ぶ断崖という意味から「塔のへつり」と名づけられています。へつりとは地元の言葉で断崖のこと。塔の形をした断崖まで吊り橋が架けられ、断崖内部の一部を見学することもでき、その特異な形から、国の天然記念物に指定されています。塔のへつりには、形状によって様々な岩の名がつけられています。一行はどんな名前前の岩なのか考えながら、見学を進めました。

## 会津藩校日新館

次に一行が足を運んだのは、会津藩校日新館。ここは人材の育成を目的に1803年に建設された会津藩の最高学府で、藩士の子弟は10歳で入学して学問や武道に励み、心身の鍛錬に努めました。武道場や天文台、日本最古のプールといわれる水練水馬池などがあり、新島八重の実兄・山本覚馬や

白虎隊の少年達をはじめ、多くの優秀な人材を輩出しました。



講話を熱心に聴く参加者



日本最古のプールといわれる水練水馬池



天文台から全景を望む

## 野口英世記念館

一行が最後に向かったのは、世界各国で流行した感染症の研究に生涯を捧げた野口英世の生涯と業績

を紹介する野口英世記念館です。野口英世は1876年に福島県猪苗代に生まれ、1歳半の時に左手に大やけどを負いましたが、後に受けた左手の手術により医学のすばらしさを実感し、医者への道を志しました。アメリカのロックフェラー医学研究所を拠点に世界で活躍し、ノーベル賞の候補にも挙げられた偉人です。一行は記念館でその歴史を学ぶとともに、体験型の展示を楽しみました。



野口英世の生家



資料を見学する参加者

会津の歴史や文化を巡り、まるで当時へタイムスリップをしたかのような感覚にもなった今回の旅。一行はその余韻を残しながら、帰路につきました。

## 伝承講演会

# 宝井派で聴く

# 武士道

9月16日(土)、めぐろパーシモンホール小ホールにて、講演協会宝井琴桜、宝井琴星、宝井琴鶴、宝井梅湯、宝井小琴による講演会を開催しました。



### 講演とは？

おもに歴史にちなんだ物語を  
読み聞かせる芸

講演はおもに武将や偉人の物語など、歴史にちなんだ話を、座つて一人で読み聞かせる芸です。釈台という机を前に置き、戦物語を読むときはその上に本をのせて読み進みます。和紙で作った張り扇というもので釈台をたたいて、読む調子を助けたりもします。特に戦いの場面では「修羅場」というリズムカルな読み方をするのが特徴です。現在では観客の好みに合わせて、さまざまな演目に加え

られ、外国の物語も演じられています。また、現代が舞台となるなど、新しい演目も生まれています。

### 歴史に学ぶものから 話芸を楽しむものへと変化

軍談などを通じて、歴史から教訓を学ぶことを目的としていたものが話芸を楽しむものへと変化していったのは、江戸時代半ばから後期にかけてのことです。軍談のような堅い歴史ものだけでなく、世相風俗を描く分りやすい内容のものも演じられるようになりしました。明治になると講演から歌舞伎の題材となる演目も生まれます。また、政治を批判する講演を専門に読む講師も現れました。

(出所：文化デジタル)

ライブラリー 舞台芸術教材

大衆芸能編(寄席)

<https://www2.nijiac.go.jp/>

[digital/contents/learn/adc20/index.html](https://www2.nijiac.go.jp/digital/contents/learn/adc20/index.html)



### 講演を楽しむ 3つのポイント

#### 其の言

「講演」と「落語」は  
どう違うの？

「講演」「落語」はことあることに比較されています。その違いはいったいどこにあるのでしょうか。簡単に言ってしまうえば「落語」が会話によつて成り立つ芸であるのに対し、「講演」は話を読む芸という言い方ができます。もちろん、読むといつても単なる朗読とは違い、独特の調子と小道具の使い方、展開されるわけなのです。よく使われる小道具として優美なのが張り扇と釈台です。張り扇で釈台をパパンという音を響かせて調子よく語ります。この小道具を巧みに使った芸こそ「講演」ならではのものです。また、「講演」は「落語」と比較して歴史が古く、奈良、平安の頃にその原型が見られます。ただし、一般によく知られる「講演のはじまりは「太平記読み」とされています。食に困った浪人が老若男女を集めて「太平記」を読んで聞かせたというものです。これ

が「講演」のルーツです。

#### 其の式

講師、見てきたような嘘をつき  
「。パン、パン、パン、パン」

張り扇で釈台をたたき、調子よくメリハリをつけて語ります。「講演」は何よりもそのリズムが命です。リズムカルな話芸の妙味によって、どんな荒唐無稽なお話しても嘘いつわりがない、本当の出来事のように思わせてしまいます。「講師見てきたような嘘をつき」「講師扇で嘘をたたき出し」とは昔からよく使われる言葉です。嘘のことも本当にしてしまう話芸のマジック。そこにこそ講演最大の魅力があるのです。

#### 其の参

黄門様も講演が本家本元

「この紋所が目に入らぬか！」今でもドラマで人気者の水戸黄門。もともと江戸時代に「黄門漫遊記」のタイトルが講演で扱われたことが人気を得たきっかけです。以来、実際には旅行などめつたに始まった黄門様はスーパースターの道を歩き始めました。その他、大岡越前、国定忠治、柳生十兵衛、清水次郎長など映画、テレビのヒーローたちの活躍も講演が生みの親といえます。いわば講演は話の宝庫。度高座をお聞きになれば話の収集家になれること間違いありません。

(出所：講演協会)

ホームページ

<https://kodankyokai.jp/>



## 出演者と演目

### 宝井琴桜

演目

徳川家康「鯉の御意見」

天下取りは、殿に意見する家臣があつたばこそ



秋田県横手市生まれ。講談協会常任理事。1975年女性初の真打となる。「瓜生岩子伝」「日本女医誕生記」「平塚らいてう伝」など、助成の偉人伝を数多く創作し口演、好評を得ている。

### 宝井琴鶴

演目

太閤記より「明智左馬之介 湖水渡り」

山崎合戦の敗軍の将、武士の散り際とはいかに



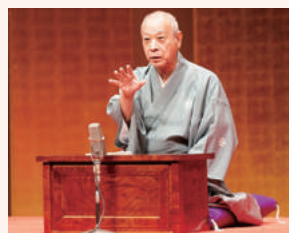
講談協会所属真打。神奈川県横浜市生まれ。2019年10月14日、真打昇進し、五代目宝井琴鶴を襲名。持ちネタは、「塚原伝」「三方ヶ原軍記」など約150席。各寄席や地域寄席、演芸会、各種イベントに出演中。

### 宝井琴星

演目

謡曲より「義経佐藤館」

源義経の二行は奥州への道中、佐藤館にて忠臣の老婆に接待を受ける



神奈川県横浜市生まれ。講談協会理事・事務局長。1985年真打昇進。時代ものから現代の世相を反映したものまで多くの新作講談を創作し、その面白さには定評がある。

### 宝井梅湯

演目

加賀騒動より「服部と稲垣の武士気質」

加賀前田六代目藩主の頃、お家横領を企む大槻伝蔵が暗躍する…



山形県生まれ。2010年2月宝井琴梅に入門。古き良き読み物を現代に甦らせ、後世に残すべく毎月軍談読み、連続物の勉強会を開催、年間250席近くの高座をこなしている。来春真打昇格予定。



宝井小琴 (前講)

## 琴鶴さんの小道具解説

今回「初めて講談を観た」という方が結構いて、張り扇の迫力に驚いた方もいたようです。琴鶴さんに講談の小道具について伺いました。

— 講談では落語とは違う小道具をお使いです。どのようなものなのでしょうか？

張り扇はりあふぎという小道具を打ちながら語るのが一般的です。代わりに拍子木はしりという小さな木片を用いる人もいます。話によつて使い分ける場合も。反対側には白扇を置き、合の手として叩いたり、所作などに用います。



— どのようなタイミングでお使いになるのでしょうか？

話に緩急をつける効果的な演出として、または場面転換に用います。「呼吸」「間」といった感覚を重視し、同じ演目でも、その日のお客様との呼吸、場の空気感により、叩き

方は変化します。即興性のあるジャズに通じる感覚かもしれません。

— 講談師の方はそれぞれご自身のものをお持ちになられているのですか？

各講談師が手作りします。芯は、日舞用の扇子を割ったものや、竹を細く切ったものと厚紙を用います。周りの和紙は西ノ内という銘柄が多い。宝井梅湯さんのYouTubeチャンネルでも、張り扇の制作を公開しています。

— ありがとうございます。最後に読者に一言お願いします。

宝井門とひと口に言いますが、各人の芸風の違い、特徴も感じていただけたかと思えます。難しく感じる言葉遣いも、聴き慣れば心地よくなることも。今回を入口として、どうぞまた、講談に親しんで頂けたら幸いです。

今回、当財団として初めて講談会を単独で開催しました。お客様も初めてご覧になった方が多かったようですが、ぜひまた観たい、次回開催を期待との声もたくさんいただきました。今後も歴史伝承の観点から講談を広めていきたいと考えています。最後に、協力いただいた目黒区芸術文化振興財団、講談協会の皆さんにお礼申し上げます。

# デジタル一眼レフカメラ講座 (その8)

2023年9月5日(火)～6日(水)

今年で8回目となる講座は、日本大学藝術学部写真学科准教授 穴吹有希先生を迎えて開催されました。熱海の起雲閣、MOA美術館にて撮影会が行われました。

## 枚数を撮って、突き詰める

座学では、基本の構図、カメラの構え方、機能や設定について学びました。講師の穴吹先生は「最近、日の丸構図(真ん中に被写体を大きく映す)は好まれなくなってきましたが、何を伝えたいかがわかりやすく良い構図です。良いものがあつたら、兎に角シャッターを切る、引いたり寄ったり、何枚も撮り突き詰めることが大切です」と言われていました。手振れをしてもNGではなく、後から見返したとき、良い写真となることもあるなどと、新たな知見を得ることができました。

撮影会では、思い思いにシャッターを切っていました。同じ被写体を撮影しても、人によって全く異なる作品となっていました。

写真撮影は、個々の感性や視点によって異なる作品が生まれるものです。人それぞれのアイデアや技術が反映されています。朝、早起きされて、朝焼けを撮影するなど、受講者の皆さんは熱意を持って撮影に取り組まれていました。

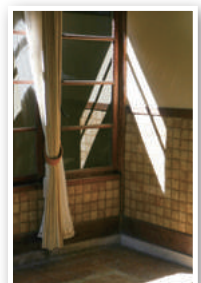
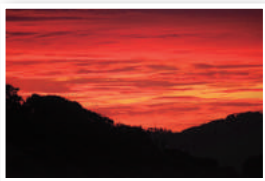
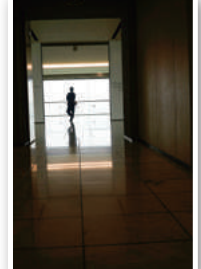
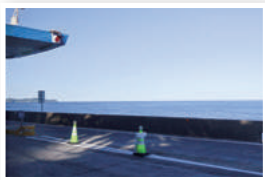
今回も日本大学藝術学部写真学科の3名の学生にお手伝いいただきました。座学や撮影会での質問に丁寧に答えていただきました。また、その一人から「ブレは、心が動いた瞬間」との名言が飛び出すなど、場を盛り上げていただきました。

これからも、講座を通じて、写真撮影の楽しさを共有していきたいと存じます。

## 写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.8

10月23日(月)～31日(火)  
於中目黒GTギャラリー

### 誌上写真展



### 穴吹先生からのワンポイントアドバイス

- ・室内撮影のときは、曇りの天気が良い …… 室内の明るさと風景の明るさが近くなり、どちらも活かせる
- ・四隅に気を付ける …… 撮影後にトリミングするのではなく、しっかりと四隅を意識してシャッターを切る
- ・風景に人を入れる …… 小さくとも人を入れれば、ストーリーのある風景写真となる



## メディアアーティスト派遣



オンラインでおどろき盤を説明する橋本氏

メディアアーティストの橋本典久氏によるワークショップが、2023年6月15日(木)〜16日(金)熊本県上益城郡益城町立広安小学校と7月5日(水)宮城県松島町立松島第五小学校で行われました。

回っているにも関わらず、絵が止まって見える、または動いて見える「おどろき盤」と複数の写真を回転させることで動画に見える「プラクシノスコープ」を制作しました。



おどろき盤を考えながら作る生徒

イン授業で120名の生徒が一齐に「おどろき盤」を作りました。子どもたちは、オンライン授業に慣れていて、先生の問いかけに、大きく手を挙げるなど上手に応えていました。

橋本氏は制作過程でどう見られるかを生徒たちに考えさせることを心掛け進められていました。「めっちゃ動いている」「おもしろい」など生徒から歓声があがっていました。終わりの挨拶では「難しかったけど、先生の話を聞いて作ることができて楽しかった」「ゲームやスマホがない昔の時代に、いろんな発想があったことに驚いた」などの感想が子どもたちからありました。

映像の起源に触れ、それが現代のテレビやスマホの動画に発展していることを体験してもらいました。



プラクシノスコープ素材を撮影する生徒



オンラインで手を挙げて反応する生徒

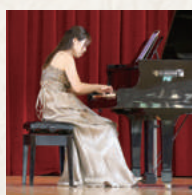
## 声楽家アーティスト派遣



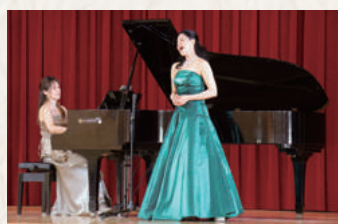
のびやかな歌声を披露したテノール 布施雅也先生

2023年6月1日(水)宮城県松島町立松島第一小学校に、声楽家アーティスト派遣を行いました。この事業は、普段なかなか触れる機会のないプロのアーティスト(声楽家・ピアニスト)の生の演奏を観て・聴いて・感じてもらう、豊かな感性を育むことを目的としています。本来は音楽室や多目的室など教室で行うのですが、コロナ感染症対策のため体育館で行われました。

緊張しながらアーティストの登場をそわそわしながら待ちわびていた子どもたちでしたが、ドレスや正装をしたアーティストを見て、思わず「うわあ〜」と声がこぼれ、目をキラキラさせていました。



力強くなやかな演奏を披露したピアノ 古川かりん先生



響き渡る美しい歌声を披露したソプラノ 荒牧小百合先生

初めてプロの演奏を目の当たりにした子どもたちは、その響き渡る声楽家の澄み切ったのびやかな歌声や、力強くしなやかに音を奏でるピアノ演奏に驚いたり、感動したりしていました。宮城県ゆかりの詩人、土井晩翠の「荒城の月」も演奏し、先生方も大変よかったです。

演奏を聴いた子どもたちの中から将来プロの演奏家が生れ、この声楽家アーティスト派遣がその一助となれば大変よさしいことです。

## ご報告



### 第45回懸賞論文 「趣味 広げる世界」 広がる世界へ入賞者が決定

今年も、恒例の懸賞論文の公募

賞	作品名	氏名	居住地
1席	つながる世界	立石 俊夫	長野県伊那市
2席	趣味と特技、そしてhobby	鶴飼 真唯花	東京都練馬区
	九十歳の母は今も進化中	伊藤 美智子	宮城県仙台市
	いくつでも、いくらでも	見澤 富子	埼玉県所沢市
3席	思い出した夢	関本 康人	神奈川県藤沢市
	終わりになき学びの道	吉田 結花	神奈川県横浜市
	学びたい理由	古井 香澄	三重県名張市
	「ふたりの私」	増田 晴奈	佐賀県佐賀市
	めでたい気の満ちる部屋で	境井 絵里香	山口県岩国市
佳作	趣味の角度	溝部 名緒子	和歌山県和歌山市
	趣味と過去のわたしの崩壊	藤原 政子	滋賀県草津市
	フラメンコで広がる世界、広げる世界	堀内 典子	神奈川県川崎市
	汗をかいて知った。だいじなこと	小田 陽子	茨城県つくば市
	趣味は突然湧いてでて	濱元 たまき	埼玉県川越市
	語り継ぐもの	鈴木 大輔	鹿児島県鹿児島市
	言葉がもたらす豊かさ	松原 英子	東京都豊島区
	けん玉	倉谷 恵子	富山県富山市
	手話で次々と聞く扉～そしてチャレンジへ	織茂 麻子	宮城県仙台市
	手にしているのはエレキです	高橋 秀和	大阪府大阪市

が行われました。今回のテーマは「趣味 広げる世界・広がる世界」です。日本全国はもとより世界から五八七編が寄せられました。厳正な審査の結果、入賞者は次の方々に決まりました。

### 2019年度生涯教育 研究助成金対象者が決定

今年度も生涯教育研究助成金の公募が行われ、生涯教育に関する調査・研究をする多くの方々の中から、研究助成金選考委員会による厳正な審査の結果、対象者が決定いたしました。今後の研究が大きな成果に繋がることでしょう。

河村優詞 八王子市立  
宇津木台小学校  
主任教諭

大重育美 長崎県立大学 教授  
古田梨乃 新潟大学 准教授  
道山知成 周南公立大学 助教  
川地亜弥子 神戸大学大学院  
准教授

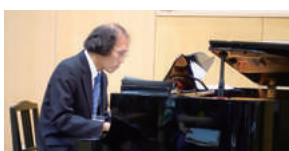
柴山慧 環太平洋大学  
准教授  
吉村春美 NPO法人  
学校の話をしよう  
代表理事  
辻大士 筑波大学 助教  
成瀬喜則 富山大学  
学長特命補佐  
(客員教授)

安達有梨 桃山学院教育大学  
助教  
荒木志伸 山形大学  
助教

### 北野財団混声合唱団 結団式開催

佐々木亨 北海道大学大学院  
特任教授

当財団では、6年間にわたりフォーレ「レクイエム」、創作オペラ「ヤマタノオロチ」の合唱に取り組んできましたが、2018年度より装いも新たに「北野財団混声合唱団」として出発いたしました。今年度も公募で集まった合唱団員約40名出席のもと、結団式が10月4日(水)中目黒GTPラザホールで開催されました。合唱指導の荒牧小百合先生、竹内雅拳先生、ピアノ伴奏の越前皓也先生、矢野里奈先生のご紹介があり、「初めて歌う曲ばかりで難しいと思いますが、今回は分割練習ではなくすべて全体練習ですので大丈夫です。コンサートまで休まないで練習しましょう」とお話がありました。その後、作曲家でピアニストの真島圭先生による講演会「言葉を歌う、音を創る」私の合唱体験を



演奏を交えて楽しく講演した真島圭先生

の合唱体験を通して」が行われ、小中学生のころに作曲したとは思えない素晴らしい楽曲を演奏されたり、



アウトリーチでは初めてのフラメンコ開催



素晴らしい音色を奏でる演奏家

同じ曲に4つの歌詞を当てはめて演奏し、どの歌詞がその曲に相応しいか団員のみなさんに挙手させたり、大変楽しい講演会となりました。コンサートは3月10日(日)めぐろパーシモンホール小ホールで開催されます。

### アウトリーチ プログラムへの協賛

当財団では、公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団が主催している「アウトリーチプログラム」に協賛しています。この事業は、目黒区内の小中学校に様々な分野のアーティスト(声楽家、ピアニスト、三味線、尺八、和太鼓、管楽器、弦楽器、マリンバ、フラメンコ等)を派遣し、観て・聴いて、感じて、芸術文化に触れて一緒に楽しむことを目的としています。子どもたちは、初めて観るプロの演奏や踊りに目をキラキラさせて楽しんでいました。

## 外国人奨学生 奨学金授与式

当財団では、成績優秀であるにもかかわらず、残念ながら経済的に恵まれていない学生に、学習の機会を与え、日本との友好関係を築く礎になれば、との想いから外国人奨学生制度を行っています。1999年、中国天津の南開大学から始まったこの制度は、現在では中国、ベトナム、インドネシア、フィリピンに展開しています。

9月にベトナムとインドネシアのPOLINES大学それぞれで奨学金授与式が行われ、奨学生一人ひとりに証書が手渡されました。

財団では、これからも多くの学生に学習の機会を与えるため、奨学助成を続けていきます。



インドネシア POLINES大学

## お知らせ



### 第51期 主要行事のご案内

2023年  
10月

- 理事会
- 美術研修(小樽・札幌)

11月

- 評議員会
- 研究助成金授与式
- 懸賞論文入賞者表彰式
- 論文集「趣味 広げる世界」広がる世界」発刊
- メディアアーティスト派遣(気仙沼市)

12月

- 彫刻奨学生彫刻作品展
- 中国(広東工業大学)奨学金授与式
- 中国(南開大学・天津大学)奨学金授与式

2024年

- 1月 ● 懸賞論文課題決定会議
- ライフシフト奨学金募集
- 2月 ● 懸賞論文公募
- 研究助成金公募
- ライフプランセミナー開催
- 3月 ● 彫刻奨学生作品設置(山梨県笛吹市)
- 北野財団混声合唱団コンサート
- 科目等履修奨学生・放送大学大学院修士全科奨学生成果発表会
- ライフシフト奨学生交流会
- 4月 ● 音楽奨学生奨学金授与式
- 歴史研修
- 美術研修
- 5月 ● 理事会
- 6月 ● 「ミランダナオ子ども図書館」大学生奨学金授与式
- 科目等履修奨学生・放送大学(選科履修生・大学院修士全科)奨学生選考委員会
- 彫刻奨学生奨学金授与式
- 講演会「伝統文化「雅楽」に親しむ
- 7月 ● 伝承研修
- 懸賞論文審査委員会
- 研究助成金選考委員会
- 9月 ● インドネシア(POLINES)大学 奨学金授与式
- 理事会
- デジタル一眼レフカメラ講座
- ベトナム奨学金授与式
- 「ミランダナオ子ども図書館」支援物資送付

※講師等の都合によりスケジュール変更の場合があります。

## こ・ち・ら・編 集 室

今年の夏は例年にないほど猛暑が続きました。8月末に行った会津への伝承研修は、本来2020年開催の予定でしたがコロナ禍で延期し、じつに4年ぶりの開催となりました。36度を越える蒸し暑さの中、参加者は歴史と伝統の学びを深めることができました。久しぶりにマスクを外したみなさまの清々しい素敵な笑顔を拝見することができて、大変うれしく存じます。やっと日常が戻り、「歌舞伎」の講演会では参加者にステージ上で所作体験をしていただくことができました。その他、「講談」の講演会や「メディア」「音楽家」等のアーティスト派遣も予定通り開催することができました。

これからも財団は、「いつでもどこでもだれでも学べる」をモットーに、みなさまが安心して参加できる様々な研修会、講演会を数多く企画し、学べる機会を提供してまいります。ぜひご参加ください。

### 設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持ってよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

## 生涯教育だより 第133号

2023年11月10日発行

編集人 城 真二

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03(3711)1111

## 表紙ギャラリー

当財団は、『出会いがドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人と人の出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

### 日光東照宮(栃木県)

日光東照宮は、1617年、徳川幕府初代将軍徳川家康公をお祀りするために建立された55棟の社殿群からなる歴史的な神社です。「日光の社寺」として日光二荒山神社、日光山輪王寺とともに1999年12月「世界文化遺産」に登録されました。

日光東照宮の最も印象的な特徴の一つは、豪華な建築様式で知られる「陽明門」です。この社殿は豪華絢爛な彫刻や金箔で装飾され、徳川将軍家の栄光と権威を象徴しています。その美しい屋根、鮮やかな色彩、そして彫刻された龍や鳳凰など細部へのこだわりは、日本の建築美の最高峰と言えるでしょう。

東照宮には有名な彫刻が数多くあります。そのうちのひとつ「三猿」は、聞かざる(聞かない)、見ざる(見ない)、言わざる(言わない)を象徴する三体の猿で、悪口や悪意を遠ざけると信じられています。この象徴的なモチーフは、訪れる人々に賢明さと善意を思い出させ、一般的には「守

り猿」として親しまれています。また、「眠り猫」は、猫をシンボルとしていますが、同時に雀も彫られていて、この両者が共存していることから平和の象徴として多くの人々がその姿を楽しんでいます。

東照宮は、徳川幕府の歴史と日本の文化に深く根付いており、「天才芸術家による傑作」と「自然と一体となった宗教空間」が評価され、登録となりました。その建築や彫刻、自然美は多くの人々に感銘を与えています。日本の歴史と伝統に興味を持つ方や美しい景観を楽しみたい方にとって、日光東照宮は訪れる価値がある場所の一つです。



写真提供: sada / PIXTA



フリージャーナリスト

多賀 幹子さん

MIKIKO TAGA

# 好奇心を持ち、行動した先に あなただけの学びが待っている

当財団が主催する「懸賞論文」の審査委員を務めていただいている多賀さん。  
ご自身の経歴をもとに、生涯教育に対するお考えをお話しいただきました。



「イギリスを知るなら英王室から」と語る多賀さん。その著書の数々は必読です (KADOKAWA)

—多賀先生のご経歴と、現在の活動についてお教えください。

新聞記者だった父親の影響で、転勤続きの幼少期を過ごしました。東京で生まれ、山形、福島、広島、そしてまた東京と、転勤のたびに落ち着かない日々を送りましたが、今となってはそれぞれの土地で過ごした経験は私にとっての大切な宝物です。また小さい頃から父の仕事の間近で見てきたことで、文章を書くこと、人に会って話を聞くことにはとても興味がありました。大学を卒業後はブリヂストンに入社し、広報誌の編集長として2年間働いた後、結婚に伴い退職。その後は2人の子どもを育てる傍ら、「フリーライター」として新聞や育児雑誌に自身の育児体験を寄稿する日々を



イギリスで過ごした日々の写真

送りました。そんな時、夫の転勤で突如アメリカに行くことに。そこで、子どもを現地の学校に入れるならアメリカの教育事情や日本との教育の違いについて書いてほしいと出版社から依頼を受けたことで、教育分野について取り上げるようになりました。アメリカの教育方法は衝撃を受けるばかりでした。とにかく子どもを褒める、両親がPTA活動に積極的など、日本との大きな違いを感じました。また現地のママ友とも親交を深める中でアメリカの女性の生き方にも興味を持つようになり、日本に戻るまでの間に5冊の書籍を出版しました。

日本に戻ってしばらく経った頃、今度はイギリスに転勤することになりました。イギリスに来てすぐに、ダイアナ妃が亡くなる衝撃的な事故が起きました。イギリス中が悲しみに包まれる中、揺れ動く英王室の動向などに興味を持つうちに、気づけば英王室の虜になっていました。それ以来、英王室についての取材執筆を続けています。

—北野財団が主催する「懸賞論文」の審査員を引き受けてくださった経緯についてお教えください。

昨年、審査委員長を務められている耳塚寛明先生から「勉強になるから」と審査員の

お誘いをいただいたのがきっかけです。今年の論文テーマ「趣味 広げる世界・広がる世界」も大変興味深く読ませていただきました。日本人の感性の豊かさ、真面目さが溢れる作品ばかりで、それぞれの趣味を魅力的に紹介されていたと思います。審査員の皆さんは錚々たるメンバーですが、お互いの審査に対して切遠慮がなく、よく議論が飛び交っています。その雰囲気心地よく、私も一審査員としても楽しませていただいています。

—生涯教育のお考えをお聞かせください。

私はこれまでの経験から、書くことこそが「学ぶこと」だと感じています。例えば、何か文章を書きたいと思ったときに、分からないことがあれば調べるし、誤った情報を流さないためにも裏付けをとる、人に会ったり、現地に行ったりして取材をする。そうしているうちに学んだ先に、初めて書くことがあると感じています。生涯教育とはその繰り返しなのではないでしょうか。文章を書くことに限らず、自分の好奇心で何かを進めると、それを見てくださる方がいる、読んでくださる方がいる、評価してくださる方がいる。そうすると、そこからつながりが生まれるし、自分の世界を広げることにも通じます。

—ご趣味、余暇の過ごし方をお教えください。

趣味はもっぱらイギリスです。趣味が転じて仕事になっているという感じ。あとアメリカ、イギリスにいたときはテニスをやっていました。ダブルスのチームを組んでよく試合にも出ていましたね。またイギリスにいた頃はウィンブルドンにも何度か観戦に行き、運良くセンターコートで試合を見ることもできました。

—読者へのメッセージをお願いします。

今でこそ生涯教育という考え方は当たり前前になりつつありますが、実際に何をしてみようか迷っている方は多いのではないのでしょうか。北野財団では、城めぐり、美術研修など、さまざまな活動を行っています。少しでも興味があれば、まずは是非参加してみてください。行動すれば、そこから出てくることもあるし、もつとやりたいことが出てくるかもしれません。自分の人生をより豊かにするために、はじめの第歩を踏み出してみることが大切だと思います。

イギリス王室の話題になると、話が止まらなくなってしまうほどイギリス王室愛にあふれる多賀先生。今後も「懸賞論文」の審査員としての活動にもご期待しています。